

日本ハリストス正教会教団・西日本主教教区報

西日本正教

No.149

Spring, 2021

西日本主教教区宗務局

604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

京都ハリストス正教会内

Email: OCJWDiocese@gmail.com

電話・FAX (075)231-2453

郵便振替 01030-5-18547



聖油を恵むイヴィロン「ハワイの至聖生神女」奇蹟のイコン

○教団ニュース

幾歳も！

聖自治教会祝福五〇年祭

日本宣教団設立一五〇年祭

於…東京復活大聖堂

九月二日(土)一八時〜晚祷、参拝者約三〇人、一三日(日)一〇時〜主日聖体礼儀、感謝祈祷等、参拝者約一〇〇人。記念聖体礼儀にはダニイル府主教座下、セラフイム大主教座下はじめ各教区局長、マルコ小池師、コンスタンチン榊田師、西日本教区から満田稔総局役員(豊橋)と及川が参拝。西日本教区からは教区信徒一同名でお祝い花を贈呈した。



主日聖体礼儀後、府主教座下のメッセージ、駐日ロシア正教会ポドヴォリエのニコライ・カツバン師によるロシア正教会キリル総主教座下のメッセージ代読、ロシア大使の祝辞(代理者の代読)、セラフイム大主教座下の祝辞、キリル聖下への京都西陣織の祭服用布地の贈呈、亜使徒聖ニコライのイコン贈呈(ロシア正教会からの贈り物)などがあった。



そのあと谷中霊園、主教品墓地で感謝祈祷。参拝者約一五人、一五時頃ニコライ堂帰着、解散した。



いまは駐日ロシア正教会に籍を置くニコライ小野成信修道司祭にもお目にかかりお話ができ、うれしく思った。ニコライ小野師が日本正教会に帰属し、いっしょに聖務できる日が楽しみである。

詳細は「正教時報」等で紹介。晩秋に記念胸かけ十字架(金メッキ)、一二月に記念誌が各教会・信徒へ配布された。(及川記)

〇人事ニュース

永遠の記憶

長司祭 グリゴリイ 小川公師



八月一七日（月）お昼頃、徳島正教会の長司祭グリゴリイ小川公師永眠、八四歳、癌性胸膜炎。夕方、管轄司祭ゲオルギイ松島雄一師が赴かれ、ナフアナイル小川卓師と共に、公師を司祭服に完装。それから教団と協議の上、葬儀日程を決定、徳島正教会葬とすることも決まった。

二〇日（木）一九時〜通夜。パニヒダ、二一日（金）一一時〜司祭埋葬式、仙台の大主教、東京の副主教セラフイム座下のご司禱、陪禱に長司祭マルコ小池祐幸師、ゲオルギイ松島師と及川、いずれも徳島聖神降臨聖堂において執り行われた。

小川公師は大阪出身、一九七〇年輔祭叙聖、七三年司祭叙聖、八〇年一〇月徳島聖神降臨聖堂成聖式。公師は徳島聖堂の建設に貢献、徳島管区の管轄司祭となられ四国全域のみならず、和歌山、柳井原地域の牧会・宣教にも尽力されたほか、長年、献金委員長を務められ、教団の聖職者年金制度確立にも多大な功績があった。二〇一五年に成聖された西日本教区センター建設は、公師の発議、建議から始まったことも記憶に新しいことである。

その穏やかな優しい人柄ゆえ、後輩司祭からも慕われ、供花・弔電も多数寄せられたほか、教団ダニイル府主教座下より供花と弔電が贈られた。喪主であるご子息、司祭ナフアナイル小川卓師は四国地域の神父として熱心に司牧されている。心より永遠の安息をお祈り申し上げます。（及川記）



新伝教者西日本教区着任の「挨拶

昨秋、京都ハリストス正教会に着任しましたソロモン川島です。大阪教会で三年ほど過ごした後、神学生として三年、また伝教者として引き続き二年間お世話になった東京・ニコライ堂を離れ、慣れ親しんだ西日本の教区へと戻ってまいりました。顔馴染みの方も、まだお話ししたことのない方も、安心してお会いできる日が待ち遠しい限りです。

さて、聖使徒パウエルは「我等互に顧みて、愛と善き行とを勵ますべし（エウレイー〇章二四節）」と教えます。ハリストティアニン最大の目標である「永遠の生命（イオアン六章四〇節）」を手に入れるためには、私たち一人ひとりの力は僅かながらも、神様の助けを信じてあらゆる面で協力することが不可欠です。ゆえに、信仰の素晴らしさ、祈禱の尊さを皆様と共に分かち合い、その中で私自身にとってもさらなる成長の機会にしたい、と考えております。

コロナ禍の大変な時期ではございますが、いかなる困難に見舞われても「我獨に非ず、蓋父我と偕に在るなり（同上二六章三二節）」という主の御言葉を心に留め、ハリストスの

良き働き手として、教区内の宣教・牧会活動に邁進する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



京都ハリストス正教会
伝教者ソロモン川島大

○教区ニュース

「〜大阪正教会の取り組みもふくめて〜」

教会活動のオンライン化

新型コロナ感染拡大は、教会にとってかつて経験したことのない、試練を与えています。教会は本来ギリシャ語では「エクレスシア」と呼ばれていました。「集まり」という意味です。残念なことに、現代では「キリスト教」でも、信徒それぞれが、それぞれに聖書を読み、それぞれの思いを神に投げかけ神との一対一の交わりの中で信仰を深めてゆくこと、それが信仰生活であるというような、初代教会の信徒たちとは似ても似つかない信仰観を持つ教派も多くあります。しかし私たち正教会では「一つの信仰」を信徒互いの交わりの

中で確かめ合い、その祈りを一つの奉神礼共同体として神に捧げ、みなが一つのパン、一つの杯から主ハリストスの尊体血を分かち合うことを、まことの信仰生活の源とします。そこで交わりを深め、一人一人がいつそう、互いを励まし支え合いながら、洗礼の時にいただいた、ハリストスのイメージ（像）をそれぞれの人格の内に目に見えるものとしてゆきます。

「集まらない」ということが、教会にとって、私たち正教徒にとって、どれほど耐えがたく、悲しく、無念であるか…、この一年以上にわたる未曾有の状況の中で、皆さんそれぞれに身にしみてお感じになったことでしょう。

しかし、聖使徒パウエルが「神を愛する者たち：には、万事が共に働いて益となる」（ローマ人への手紙八章二十八節）と、私たちを励ましていることを忘れてはなりません。いまの患難の背後にいて、私たちを絶望させようとするサタンの策略に落ちてはいけません。私たちはこの窮状を、どんな状況をも教会にとつての「よき地」へと変えて下さる聖神の働きの内で、勇気と知恵と互いの愛を働かせて、現代社会がもたらした新しいツールをおびえることなく、かつ慎重に利用して、「エクレスシア」（集まり）としての教会をいっそう堅固な集まりにしてゆかなければなりません。

西日本主教教区でも九月からZoomを導入し、教区司祭会議をオンラインまたはオンライン併用で行っています。オンライン・ミーティングにすることで、感染リスクが減るだけでなく、時間と経費の大きな節約にもなります。例年行ってきた教区セミナーもオンラインでの開催を企画し、インターネットに詳しい京都教会の小田切兄にもお知恵を拝借し、その打ち合わせも十二月にZoomで行いました。実際のビデオ撮りは二月四日に京都教会で行い、講師のソロモン川島伝教者が編集してYouTubeに上げて、十一日に公開しました。昨年一年間休止した「奉神礼基礎講座」もオンラインでの再開が決まっています。オンライン講座、セミナーの詳細は教区のホームページをご覧ください。

<http://www.orthodox-jp.com/westjapan/>

教区に先んじて大阪教会では、いち早くオンライン活用を始めました。最初の緊急事態宣言下SNS上で「お祈りに出られないのがつらい。ライブ配信をやってほしい」それに対して「スマホと三脚があればできますよ」という声に背中を押されて、四月五日のエジプトのマリアの主日からFacebookで聖体礼儀のライブ中継を行い始めました。スマホに強い近隣の若い信徒の協力も得て、次の聖枝祭主日、受難週に続いて、深夜の復活祭も中継

し、この時は千人以上の視聴者がありました。その後も主日聖体礼儀の中継をしています。

秋からは、それまで中止していた伝道会も、YouTube「ビデオ公開」とZoomミーティングで再開しました。Zoomミーティングは大阪以外の信徒や求道者も参加し、対面の伝道会と変わらない雰囲気で行っています。また、ビデオ講座「正教聖歌の伝統」（マリア松島純子姉）もすでに3三本収録しYouTubeで公開しています。この講座は教区活動として「奉神礼基礎講座」に合流します。

こんなこともありました。予定日より1ヶ月以上早い出産になってしまったママの依頼で、聖堂で司祭とマトシカが無事の出産を祈る祈禱を行い、病院にいる本人と友人たちにラインのビデオトークで中継し、一緒に祈りました。またお葬式の時も、コロナのために遠方から参列できないご家族やご親族のために葬儀の様子を中継、録画し、インターネットから見られるようにしました。

まだまだ参拝や来会を積極的に呼びかけることがはばかれる状況が続くかと思いません。ライブ中継は参拝の代わりにはなりません。今、この時間に教会で祈りが行われているというの大きな励ましになります。また教会を離れていた方たちがライブを見て、将来の参拝に繋がる可能性もあります。いつか、本当に気兼ねなく集まれる日がくることを祈り

つつ、今何ができるかを探してゆきたいと思っています。

(松島記)

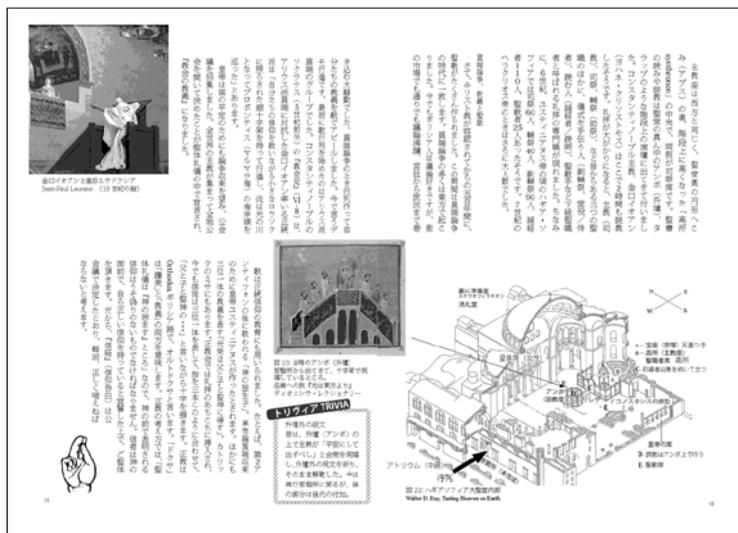
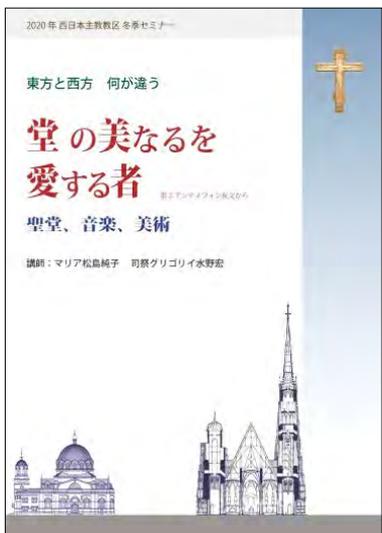
オンライン「冬季セミナー」「奉神礼基礎講座」
教区のホームページから

<http://www.orthodox.jp.com/westjapan/>

冬季セミナー講演録 完成

昨年の冬季セミナー『東方と西方、何が違う—堂の美なるを愛する者』の講演録ができました。「どうして正教会は聖堂でコンサートをしないの?」「なぜ教義にこだわるの?」など、よくある疑問の答えを、聖歌発展の歴史から考えます。東西教会の聖堂の形には、「音楽」「奉神礼」に対する考え方の違いが表れています。ハギア・ソフィア大聖堂の内部、ビザンティンの十字行などの珍しい図版も多数、面白コラム「正教トリビア」やエッセイも書き加えて、楽しく読める正教奉神礼紹介の冊子です。三十六ページ。

例年は次年度の冬季セミナーの参加者に配布していましたが、今年はオンラインで行ったので、西日本教区内の教会で頒布(希望頒布価格三百円)します。遠方の方は郵送(二百円)もいたします。



九州豪雨災害

―その後の「報告」

人吉ハリストス正教会
グリゴリー水野 宏

昨年七月四日に発生した令和二年七月豪雨で、熊本県人吉市を中心に大規模な災害が発生し、またそれに対して全国の皆様に復興のための支援金をお願いしましたのは、前回号の『西日本正教』に掲載のとおりです。本稿では支援金募集の結果と、その後の状況についてご報告します。

支援金の募集と寄付について

災害発生から一週間後の昨年七月一日、全国公会において私より人吉球磨地域の被害状況について報告し、支援金の募集を私が窓口になって行うよう指示を受けました。また、教団から支援金として五〇万円を拝受しました。

早速『正教時報』に募集の広告記事を掲載してもらおうと共に、私が管轄する九州管区のホームページを新規に開設し、そちらにも支援金のお願ひ広告を出しました。

この災害では、被災者は家から衣類などの小さな家財に至るまで、全財産を失うほどの

被害を受けているのに対し、被災しなかった人々は何も失っていないという極端な格差に特徴がありました。そこで、支援金も機械的にばら撒くのではなく、実際に被災した信徒や関連する事業所に対し、復旧に役立てられるよう迅速にお届けできるように取り計らいました。

締切日を九月末日に設定して募集した結果、全国一七教会と一五〇名以上の個人（連名は一人カウント）から約二八七万円の支援金が寄せられました。教会外の個人や団体からの支援金額は総額の四分の一の七〇万円近くにも上り、改めて教会を超えて多くの方たちが関心を寄せていることを実感しました。

これに教団からの五〇万円を合算し、避難生活信徒への見舞金に三〇万円、人吉市に五〇万円、壊滅的な被害を受けて全線不通となっているくま川鉄道に二〇万円、信徒が運営する事業所で大被害を受けた相良村のなつめ保育園に一五〇万円、同じく社会福祉法人ペートル会に五〇万円の、合計三〇〇万円の寄付を九月末日までに実施しました。

以上の事柄については、一〇月一四日付（人吉教会の堂祭の生神女庇護祭）で決算報告書と御礼状を作成し、両主教座下と実際に支援金をくださった教会・個人全員に発送しました。

被災者支援への協力

災害発生直後から、人吉市内の各所で生活物資を配布するボランティア団体の拠点がいくつもできました。熊本県は二〇一六年の大震災で県全域が大きな打撃を受けており、県民の間に災害時の助け合いの意識が強くあったことが背景にありました。

私の妻も、そういったボランティア活動に参加したところ、以前、球磨郡の別の町で子育て世代のお母さんを支援していたことがあるYさんという方と知り合いました。

九月の終わりにYさんから妻に、避難生活中の乳幼児を抱えた女性が子育ての悩みを相談できる機会がなくなり、精神的に困窮している。しかし、これまでそういう人々の交流の場となっていた公民館はすべて被災して閉鎖されている。どこかに集会場として使える場所はないか、との相談がありました。

その話を聞いて、祈祷がない時は閉まっている人吉教会の集会室を提供することを決意し、一〇月から毎週木曜日、Yさん主催で被災した子育て世代のお母さんたちの交流サークル会場として開放することにしました。

さらに全国で小中学生の教育支援を展開しているNPO法人カタリバが人吉市内の小学校の体育館を借り、被災児童の遊び場として休日に開放していましたが、カタリバが撤退することがになり、小学校を継続して借り続けることが困難になりました。Yさんはそちらの活動にも関わっていたため、教会を会場と

して提供してもらえないかと相談を受けました。さすがに聖堂を子どもの遊び場にするにはできませんが、人吉教会の敷地内には使われていない旧司祭館がありましたので、そちらを提供することにしました。

しかし、旧司祭館はあまりにも長い年数空き家だったため、内部は全体的にかび臭く、床などが傷んでいる箇所もあり、さらに建物の内外に不用品が山のように残されていました。そこで、私たち夫婦とYさんらで約一か月かけて旧司祭館内の掃除と修繕をし、教会の経費で業者を呼んで粗大ごみを廃棄しました。

その結果、旧司祭館は見違えるほどきれいになり、一二月から毎週土曜日、被災児童のための開放を始めました。

教会の遊休施設を被災者の役に立てることができ、大変良かったと思っています。



人吉の現状

二月で災害発生から七か月を経過しました。支援金を贈った前述のなつめ保育園は昨年一〇月には復旧できましたが、これは極めてレアケースです。人吉市内の被災した家屋や店舗のほとんどは破損したまま放置され、年明け後によりやく公費解体が進んで更地が目立つようになってきました。

しかし、コロナ感染拡大の影響もあって、飲食業や観光業は業務再開が極めて難しい事業者が多いようです。また、鉄道の復旧のめどは全く立っておらず、道路も球磨村内は許可された車両しか通行できません。

このような状況で、被災の復興には相当長い年数がかかることが予想されます。今後も皆さまのお祈りとご支援をお願いする次第です。



松山 ロシア兵捕虜・墓地祈禱

令和二年十一月三日、徳島から司祭夫婦と高松から大藪兄が出席、新型コロナウイルスの影響も心配されておりましたが、松山・ロシア兵墓地保存会の菅田会長をはじめ、保存会の方々と日々、墓地の清掃活動をして頂いている地元・勝山中学校の先生方、生徒代表の方々の参加もあり、徳島から持参した百束のお花とお菓子を墓前に供え、午前十一時より墓地祈禱を献じ、ロシア兵捕虜九十八名の為に永遠の記憶が為されました。



祈禱後に、現存していませんが、この松山に捕虜のために建立された聖堂のお話をさせて頂き、保存会の方々からは長司祭グリゴリー小川公師へのお悔やみのお言葉も頂き、この繋がりが永遠に続くことを願い、来年の再会を約束し、徳島へ帰路に着きました。

(小川記)



コロナ渦での各教会の様子

各教会大聖水式の様子



一月十日には半田教会で、一七日には名古屋教会で神現祭をお祝いし、大聖水式を行いました。半田教会では十字行で聖堂を一周した後、聖堂入口で聖水式を行いました。名古屋教会では寒さのため、屋内で聖水式を行いました。昨年名古屋教会神現聖堂十周年記念行事を盛大にお祝いしましたが、今年はコロナのために恒例の餅つきの祝賀会も中止となりました。来年はまた堂祭ができることをお祈りします。写真は名古屋教会です。



京都正教会



大阪正教会



豊橋聖使徒福音者マトフェイ聖堂

修復工事 起工式・感謝祈禱

国の重要文化財に指定されている豊橋聖堂。正式に文化庁の承認を得、秋より聖堂修復工事の準備の協議会、古材倉庫・現場監理事務所用地の駐車場の整理、地質調査のボーリング、入札による修復工事業者の選定など、あわただしい日程のうちに新年を迎えた。

起工式・感謝祈禱

一月十五日（金）午前中、工事等に関する協議会のあと一三時半〜聖堂にて表記起工式、感謝祈禱が執り行われた。祈禱は、日本の使徒聖ニコライに依頼する感謝祈禱。参拝者は、ソロモン川島伝教者の先導する大十字架につづき、聖歌を歌いながら十字行。神父が聖水にて聖堂内外をていねいに祝福。小春日和の晴天のもと「幾歳も」を斉唱した。

そのあと、神父のメッセージ、施工業者…魚津社寺工務店…魚津忠弘社長、豊橋市教育委員会…大林利光部長、伊藤篤也市議会議員、満田稔執事長が挨拶をされた。工事業者・市関係者、中日・東愛知・読売新聞等報道関係者、八町校区…吉見正樹自治会長らの来会、参拝者約四〇人であった。



執事会、婦人会の皆様、ありがとうございます。
ました。

《感謝祈禱 及川神父のメッセージ》

本日は国の重要文化財に指定されている豊橋聖使徒福音者マトフェイ聖堂修復工事起工式、感謝祈禱にご参拝賜り、皆様ありがとうございます。

リストラという言葉があります。しばしば

会社再建にあたり、人減らし、肩たたき、首切り、転職の勧めなどの意味に使用されます。でももともとの意味は少し違います。

リコンストラクションの略語で、やり直し、仕切り直し、もう一度作り直すこと、再生が本来の意味だそうです。

いま日本中で古びた多くの家や建物が、どんどん取り壊されています。それらと違い、この豊橋聖堂は取り壊されず、国の重要文化財に指定され、このたび修復工事を迎えます。ところでわたしたちの教会、正教会、オーソドックス・チャーチ、つまりキリスト教は、「復活の宗教」です。復活の信仰をもつています。

復活とは奇蹟、死よりの甦り、死者の復活、再生、まさにリストラです。

それでは正教会におけるリストラとはどういう、やり直し、再生なのでしょうか。

絶望・失望には希望の光を、挫折やあきらめには不屈の勇気を、ひとの欠点や悪いところばかり見つけてしまう心の貧しい人には、ひとの美点・良いところを見いだす心の豊かさを、生きながら死にかけている失意の人には、生きる喜びと生命を恵みます。

この聖堂は、ひとの真の人生・生き方、復活を実証するため、リストラを奇蹟とするために建てられたものです。



すなわちリストラを実証する聖堂がここにあります。

建物としては、日本における近代建築、ロシア・ビザンティン様式の本格的木造建築、和洋折衷の様式美を過去から未来へとつなげる、国民の財産として。

聖堂としては、キリスト教「復活の信仰」をつたえる信仰のシンボルとして。

さらに正教会、オーソドックス・チャーチの精神文化を育む聖堂芸術として。

多くの豊橋市民、愛知県民そして日本国民の再評価、新たな発見と感動の対象として、

ここに、わたしたちの目の前に存在しています。

わたしたちの聖堂は皆様と共にリストラ：再生され、甦ります。工事完成時には、ますます愛され、大切にされる聖堂として、「作り直されている」よう心から祈望するものです。

○講話 伝教者 ソロモン 川島 大

最強の名医―五旬祭後 第二四主日

(ルカ八章四一節〜五六節、エフェス二章十四節〜二十二節)の説教

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたし（ハリストス）が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」。自分自身や愛する家族が困難に見舞われた時、私たちはどのように助けを求めるでしょうか。たった一人でもがき苦しもうが、やみくもに主の名を呼び叫ぼうが、残念ながらそれだけでは神様に私たちの想いは届かないかも知れません。けれども、本日の福音には願いが叶った二通りの例として、

①出血の止まった女性、②息を吹き返した少女が登場します。彼女たちに共通するのは、神様によって本人あるいは身近な存在の「諦めない信仰」が祝福された点です。

まず、十二年にも及ぶ長い期間、不正な出血に頭を抱えてきた女性について振り返りま

しょう。全財産を投じながら、ついには誰からも癒されなかった彼女。それでも、主が地元に行って来たことを知り、藁にも縋る思いで駆け付けます。すでに人だかりができていましたが、「このチャンス逃してはなるまい」と諦めず、人波を掻き分けてイイススの背後から衣の裾に触れました。すると、長患いはたちまち癒され、その証拠に惱ましい出血が止まったのです。苦しみからついに解放されたことで安堵した彼女は、その場を離れかけます。

ところが、「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ^二」という主の言葉が聞こえました。「もしや、他人を差し置いてまで、私利私欲のために救いを求めようとしたのが不味かったのではないか」。青ざめた様子の彼女は、恐るおそる名乗り出て、その理由や経過を説明しました。けれども、主は決して彼女を咎めることなく、むしろ温かい言葉さえ掛けられます。

すなわち、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい^三」と。

人の全てをご存知の神様は、当然ながら彼女の苦労や信仰について、直接耳にせずとも把握されています。それでも、あえて自らの口で望む事柄を伝えるように促しました。これまでの経緯を話すにあたり、何人もの医者に診てもらったことをも彼女は述べたはずです。旧約の時代、「足の病にかかり、その病は極めて重く、その病の中にあつても、（彼は）主を求めず、医者に頼った^四」王がいます。「長患いは、医者の手を負えぬ^五」ほどでしたが、主に寄り頼まなかった結果「今日、王であっても、明日は命を奪われ^六」てしまいました。

一方の彼女はどうか。マトフェイやマルコも同じ箇所を扱っていますが、医者であったルカはこの部分を慎重に記しています。マルコが「多くの医者にかかつて、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった^七」と書き留めたのに対し、「医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえ

この事実は、祈祷における「記憶」の重要性を伝える箇所と捉えられます。ゆえに、私たちが大切な人のことを思い浮かべて祈りを捧げるならば、本人のひたむきな努力と同様、神様に祝福された善き行いとして認められるのです。

今この聖堂に集う私たちは、ハリストスを知らなかった頃の「この世の中で希望もなく神もない者^{一三}」ではありません。すでに、「異国人でも宿り人でもなく、聖なる民と同じ国籍の者であり、神の家族^{一四}」なのです。ただし、そうである以上は「神様のことを知らない」という言い訳が通用しないのもまた事実。ハリストスは「人々の前でわたしを知らない」と言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う^{一五}と仰っています。ですから、神様のことを知りつつもあざ笑った人々のように、信じがたい奇跡に疑いの目を向けるのではなく、自らの立場に置き換えて共に希望を失わないことが肝心です。

また、未だに信仰が定まらない者にとって、教会の教えは「皆、偽りの薬を塗る／役に立たない医者^{一六}」に過ぎないかも知れません。けれども、いくら苦しみをやり過ごそうと、自らこの境遇を打ち破らない限り、本当の救いはかけ離れたままです。私たちが勇気を持つて歩み出れば、神様はその時その人に相応しい形で応えてくださいます。だからこそ、自ら救われたいと願うならば、血漏の女性のように恭しく、誰かの救いを願うならば、最後まで諦めず主に祈りましょう。後者については、かえってその人自身にも救いが及ぶはずです。

「あなたたちは子どもが病気になった時、慌てて祈祷師や医者を探ねはするものの、救い得る方の真実の助けを軽んじている^{一七}」と聖大ワシリイは戒めます。私たちにとっての「最強の名医」は、架空の「ドクターX」でも「ブラック・ジャック」でもありません。

もっと身近な所に「失敗しない」完璧な医者がおられます。その「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われる^{一八}」でしょう。



一三 エフェソ二章一二節
一四 同二章一九節
一五 マトフェイ一〇章三三節

一六 イオフ十三章四節
一七 「聖大ワシリイ教訓」 pp.7-8, A.ネウスキー編（一九〇一）『聖神父教訓鈔』堀江 復訳、正教会編集局

一八 使徒行実一六章三一節

オンライン講演会の報告



この度、オンラインでは初の開催となる西日本教区・冬季セミナーの講師を仰せつかり、「とっておきのご聖体 先備聖体礼儀―究極の精進料理」というテーマでお話しさせて頂きたく機会を得た。なお、技術的なアドバイスで京都教会のメフオディ小田切兄に、チラシのデザイン制作や動画のアップロードに際して松島神父様ご夫妻に、それぞれご協力いただいている。

様々な制約からライブ配信が困難であると判断されたため、約一時間分の情報量を前半に分けた動画へと編集。教区ホームページやチラシ等にて、事前にリンク用の

URLやQRコードを周知のうえ、まず先備聖体礼儀の予備知識、続いて先備聖体礼儀の概要を紹介した。質疑応答の場については、教区のオンライン講座とタイアップして、後日設けられることとなっている。

従来の座学とは異なり、インターネット環境およびパソコンやスマートフォンなどの再生機器を有していれば、受講時間や場所は選ばない。よって、自宅でくつろいだり、飲食したりしながらであっても、配信期間中は繰り返し、あるいは複数回に分けて視聴できるのが、この方式のメリットである。

公開直後より反響が良く、すでに何件ものご意見やご感想を頂戴している。内容に関しては、概ね好評であったように思われるが、「全体的に音量のボリュームが小さくて聞き取りにくい」とのこと。また、手元の録音データ破損に伴ってやむを得ず用いた外国語の聖歌は、案の定「日本語のほうがより実感が湧く」という声も聞かれた。個人的には、「ん」をはじめとする発音の不明瞭さを痛感した次第であり、今後の説教や勉強会に活かしたい。

(伝教者ソロモン川島記)

西日本教区 冬季セミナー 2021
とっておきのご聖体
先備聖体礼儀―究極の精進料理

前編
先備聖体礼儀
の予備知識

後編
先備聖体礼儀の概要

グリゴリオの聖体礼儀

- 現在は水曜日、金曜日を中心とする大斎中に平日に行われる
- 聖体礼儀と呼ばれるも、聖変化を伴わない
- 予めご聖体が用意されているため“先備聖体礼儀”の名で知られる

聖体礼儀の種類

ワシリイの聖体礼儀	イオアン
<ul style="list-style-type: none"> 年間10回のみで、復活大祭影の大斎期間に集中して行われる 修道士たちに向けて書かれた神学的で長大な祈禱文 	<ul style="list-style-type: none"> ワシリイ聖体礼儀を行う日と聖体礼儀自体が行えない日以外 町の教会へと通う一般信徒にも分かり易い簡潔な祈禱文

後編
先備聖体礼儀の概要

先備聖体の保存

聖体への保存

種別は我が朝には

おうち時間、巣ごもり時間がふえているなか、西日本教区の刊行した本を読みませんか？

〈翻訳 出版物〉

○正教入門シリーズ

- 1 トマス・ホプコ、ダヴィド水口優明訳 『正教要理』
- 2 トマス・ホプコ、イオアン小野貞治訳 『奉神礼』
- 3 トマス・ホプコ、ゲオルギイ松島雄一訳『聖書概論 教会史』



○カリストス・ウェア、ゲオルギイ松島雄一訳

『私たちはどのように救われるのか 大斎 正教徒は聖書をどう読むべきか』

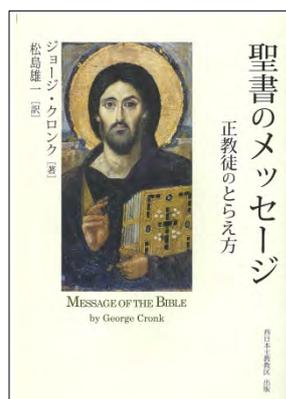
○ジョージ・クロンク、ゲオルギイ松島雄一訳

『聖書のメッセージ 正教徒のとらえ方』

○ヨハン・V・ガードナー、マリア松島純子訳 『ロシア正教会の聖歌 正教会奉神礼・聖歌入門』

本書には、ウラディミール・モロザン『祈りの音楽』収録

* 上記の本いずれも1冊 1,300円(送料別)

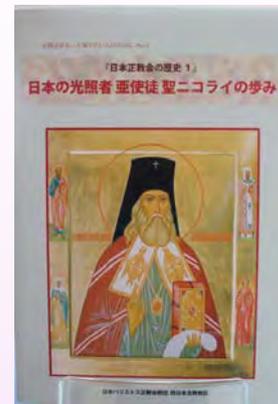
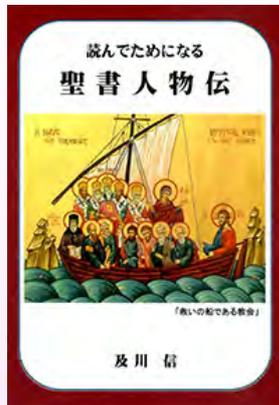


✿ 〈正教会をもっと知りたい人のために〉 ✿

○パウエル及川信『神父になったサムライ 日本正教会の歴史論考』1,000円

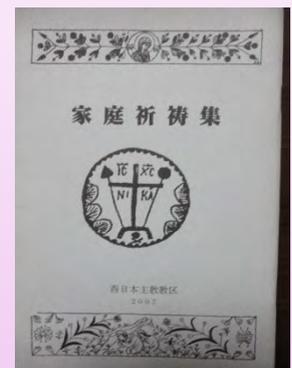
○パウエル及川信『聖書人物伝 読んでためになる』1,500円

○日本正教会の歴史『日本の光照者 亜使徒 聖ニコライの歩み』カラー刷 300円



〈ご家庭での祈りに〉

○『家庭祈祷集』 子どもがお祈りできるよう、すべてフリガナつき 500円



*ご注文は、京都正教会あるいは、最寄りの正教会へお願いします

☆東日本主教区の本も読みましょう! 目録

○聖ニコライ・ベリミロビッチ、アナスタシア山崎佳代子訳 『善と悪をめぐる思索』より

○神品致命者セラフィム・ズヴェズディンスキー、土田定克/アレクセイ・ポタポフ訳
『天のパン 聖体礼儀の意義をめぐる23の説教』

○修道士テオクトス・ディオニシアトス、イオアン長屋房夫訳 『天と地の間 天国への道標』

